

特別支援委員会

委員長 戸栗 倫子

カンガルーシップ活動助成金事業

多様性を理解し、共に生きる意味を知り、心の成長を促す活動に役立てられている。今年度も「理解プロジェクト」「共生プロジェクト」「就労支援」「ネイバーサポートプロジェクト」の4つの助成金事業（総件数39件）を実施した。各学校での取り組みに有益に活用していただいた。

全国大会特別支援部会

「未来の『共生社会』を考える～附属特別支援だからできる就労支援～」というテーマで開催した。高知大学教育学部附属特別支援学校と愛媛大学教育学部附属特別支援学校の事例報告をしていただいた後、グループディスカッションを行い、情報交換の場とした。

全国大会記念品展示

21校から協力をいただいた。展示により特別支援学校・特別支援学級の活動を知る機会となり、写真掲示や動画上映により作業に取り組む生徒の姿も発信した。また、お土産として持ち帰りいただき、全国的なつながりとなった。

全国大会でのクッキー販売

大会1日目に、高知大学が障がい特性に適した雇用場の場として特別支援学校敷地内に立ち上げた菓子工房「h o c c o s w e e t s」のクッキーを販売した。また、販売時には筑波大学附属大塚特別支援学校の生徒が手伝い、特別支援学校を身近に感じる場となった。

就労支援キャンペーンの実施

附属の保護者の皆さまに、障害者就労に取り組む企業、または今後検討しても良いという企業の情報提供を依頼し、61件集まった。

就労情報アンケート

今後の就労支援策を考えていくために、各学校の進路状況や保護者の思いをアンケートにより把握した。